



体育系大学運動部の指導者へのインタビュー調査 -部活動に所属する部員への意識調査を基に指導方法を探る-

1)宮地弘太郎 2)比嘉靖 3)長江晃生 4)村上雷多 5)梅林薫
1)-5) 大阪体育大学

1)先行研究

- 1)体操競技全日本学生選手権1部校上位にランクされる21名における競技意欲レベルの調査
→DIPCAを用いた『自己実現意欲』『闘争心』『忍耐力』『勝利意欲』が強く『集中力』『競技意欲』も高いことが明らかになっている。岡崎(2000) レギュラー群がイレギュラー群に比べて有意に
- 2)平田ら(2007-2008)結論として、自己コントロール(日常生活における)が出来ているほど、競技場面で優れているということが明らかになっていた。
- 4)田中ら(2006-2010)の調査において
1、日本女子テニス国際大会\$1000出場者への意識調査において、テニスが強くなる為に必要な要素は、メンタルが78.6%、練習と努力が21.4%、サポートが7、1%であった。
2、地域選抜ジュニアに対するアンケート調査では、男女差は睡眠時間に有意な差があり、練習時間、練習会場までの時間については平日、休日、長期休暇において差が見られた。
よって本学においては、選手獲得が年々他大学と競合する中、如何に素質ある選手の獲得を行い、指導法(コーチング)で渡り合うことの重要性。体育系大学の運動部に所属する学生の競技に対する意識調査を基に指導者へインタビュー調査を実施→本学の目指すべき指導方法の体系化。

2)方法

某体育大学103名(剣道部男子・バスケット男子・ボレーボール女子)へ調査票103部を配布し、103部回収(回収率100%)訪問面接法を実施(研究の主旨を説明し、本研究で得られたデータは、競技力向上、研究の為に使用する事に了承を得た)アンケート結果においては、

- 1)レギュラー群の方が生活習慣、練習での考え方に関してノンレギュラー群に比べて意識が高い傾向にある。
- 2)全国大会出場、地域大会(関東・関西)入賞経験ある選手、地区大会または都道府県大会入賞選手が朝食をとる割合が高い
- 3)全国大会に出場している選手は朝食摂取率高い
- 4)イレギュラー、ノンレギュラーともに練習中に意識している事は精神的な分野
- 5)レギュラーノンレギュラーともにアルバイトの比率は低いがまったくアルバイトをしないわけではない
- 6)各クラブ共に練習中に目的をもって活動している
- 7)睡眠時間は、レギュラーの方がイレギュラーよりも割合は多いが、両群ともに6-7時間である
- 8)進学は取得したい免許、専門分野がある傾向にある

3)結果と考察

アンケート結果を基に指導者へのインタビュー調査を実施し、KH coderを用いて分析を試みた

図1 Q1精神的に意識する理由(クラスター)

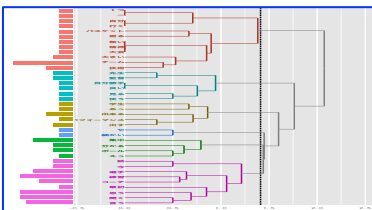


図2 Q2 目的をもつことによりパフォーマンスは向上するのか(対応分析)

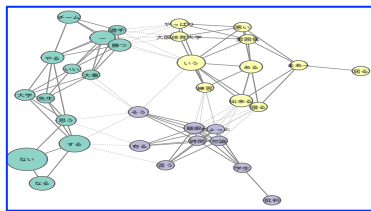


図3 Q3 生活習慣とパフォーマンスの関係

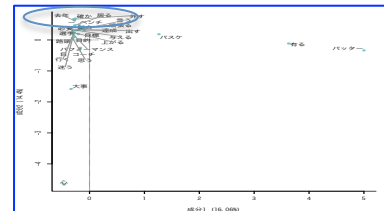


表1 共起ネットワーク、クラスター、対応分析共通項

名称	共起ネットワーク	クラスター分析
チームスピリット・チーム力	チーム、選手、練習、やる、いい、大事、大切、勉強、努力、する、思い	1)1、自分、行く、行く、行く、勉強、努力、大切、大切、チーム、勉強
練習法・大学指導方法	やっばり、思い、大阪体育大学、勉強法、いう、ある、思い、思い、思い、練習、出来る、知る	勉強、勉強、自分選手、思い、思い、思い
時間の使い方のパフォーマンスの関係	そう、勉強、ちよっと、時間、勉強、ある、学生	学生、あっ、勉強、パフォーマンス、出す
選手とコーチの関係・細かい指導		き、細かい
		集中、分かん、ボール、えっ
		監督、コーチ、練習、練習、練習、練習

4)まとめ

本研究において、運動部に所属する学生に対する意識調査を基に指導者へのインタビューをKHCODERを用いて質的に分析を試み、筆者と面接者として含み校成概念何について語句の言い換え(命名)を行った。1)チームスピリット・チーム力、2)雰囲気・大学指導法 3)時間の使い方とパフォーマンスの関係 4)選手とコーチの関係・細かい指導 本学は指導者養成大学の側面もあり、今後は汎用的なコーチング法の体系化をブラッシュアップしてゆく必要性が考えられる。